聞き手の寄り添わない反応

ーその場にいない第三者に関する愚痴に着目してー

張 麗(関西学院大学大学院生)

1. はじめに

日常生活においてその場にいない第三者に関する愚痴を語ることがしばしば行われる. そのような愚痴には, 愚痴の対象となる出来事が話し手にネガティブな影響をもらしたことを示し, さらに, 話し手がその出来事を起こした第三者に対してネガティブなスタンスを示すという要素が含まれる(Drew, 1998; Ruusuvuori & Lindfors , 2009). 第三者についての愚痴に対して, 聞き手が, 話し手の第三者に対するネガティブなスタンスを支持するような寄り添う(affiliative)反応を行うことがあれば, 話し手のスタンスを支持しないような寄り添わない(disaffiliative)反応を行うこともある(Couper-Kuhlen, 2012;Drew&Walker, 2009). 他方, 寄り添わない反応を行う場合, 聞き手が, 話し手の愚痴が理に適わないものであると示すことになるため, 話し手を愚痴っぽい人だとみなしていると, 相手に理解される恐れがあり, 話し手と対立することになる可能性がある. つまり, 聞き手は, 話し手に寄り添わない反応を行うか, 話し手と対立することを回避するかといった, 両立が困難なジレンマに直面することになるのである. では, 聞き手は, 話し手に寄り添わないような反応をする際, 以上のジレンマにどのように対処しているのだろうか. 本研究は, その問いに焦点を当てて分析するものである.

これまで, 第三者についての愚痴に対して聞き手が寄り添わない反応を行う方法として, 愚痴として聞きうる発話(complainable matter)に対して, 聞き手がその発話から巧みに焦点を外して発話の他の部分に反応し, 愚痴を受け流す(disattend)やり方(Mandelbaum, 1991/1992)や, 話し手の強いネガティブな評価に対して, 聞き手が笑いによって反応を行い, 話し手に寄り添うか寄り添わないかのどちらかを曖昧にする方法(Holt, 2012), 事実に基づいたフォローアップ質問(factual follow-up question)と, 最小限の応答を返すことで, 話し手による第三者に対するネガティブな評価に対する聞き手のスタンスの表明を避けるなどの方法(Couper-Kuhlen, 2012)が用いられていることが明らかにされてきた. これらの先行研究で挙げられた聞き手の寄り添わない反応は, いわば愚痴そのものに対して反応を示さないという点で, 非明示的に行われるものである. 一方, 第三者についての愚痴に対しては, 聞き手が愚痴に対して明示的に寄り添わない反応を行う場合もある. しかし, そのような明示的な反応について, まだ十分な研究はなされていない.

そこで本研究では, 中国語の日常会話のデータを用い, 第三者についての愚痴に対して聞き手が明示的に寄り添わない反応を行う現象に注目し, (1)そのような反応がいつどのように産出されるのか, (2)そのようなやり方を用いることによって相互行為上どのような働きを果たしているのかを, 会話分析の手法で明らかにすることを目指す.

2. データ

本研究で用いるデータは, 筆者が録音・録画した中国人友人同士の雑談(計約 6 時間)及び, talk bank プロジェクト(MacWhinney2007)によって収集されたアメリカ・カナダに在住の中国人知人同士の電話会話(計約 2 時間)である.

3. 分析

まず, データから観察された事実として, 聞き手が発話の冒頭で話し手に寄り添わないことを予示し, 話し手と異なる意見もしくは第三者の言動に対する聞き手自身の解釈を提示した後, そういう意見/解釈が可能となる理由を提示するというやり方を用いて, 第三者の言動が合理性を持つものであることを示唆し, 話し手が示した第三者に対する批判的なスタンスに明示的に寄り添わない反応を行なうことがわかった. また, そうしたやり方で寄り添わない反応を行うことで, 聞き手が話し手との良好な関係を維持することを志向すると同時に, 話し手と第三者との「対立」を解消する方向へ取り組むことを志向していることが観察された.

3.1 事例の分析

事例①はアメリカ留学中の A と B の電話会話で, 二人はそれぞれが中国にいる幼馴染の C からもらった近況報告の手紙について報告し合っている. 以下の事例①では, A が C の手紙についての自分の考えを報告する際, 恵まれている環境(国内)にいる

にもかかわらず,「思い通りにならない」と言うというCに対する愚痴を産出している. その愚痴に対して, 聞き手Bは10, 12, 13, 14行目で「国内でもそれぞれ困難なところがある」という明示的にAに寄り添わない反応を行なっている.

事例①【Call Friend 5010_04:07-07:33_思い通りにならない】

事例の直前までBがCから届いた手紙の内容を報告していたが, Aは01行目の冒頭で, 否定応答語「不是(いや)」を産出し, Aが Cからもらった手紙の内容に話を戻し(Yang, 2018),「我一看我说[1]哟怎么这么-(私が読んでみると, えっなんでそんなに-(と思った)」と, Cの手紙を読んだ時のAの思考を直接引用し, Cの手紙をどう評価するかを示そうとするが, 途中で中断して発話の軌道を変更し,「就好像(.). h什么都不尽人意[2] (まるで(.).h何でも思い通りにならないようだ)」と発話する(01行目). この発話は, Aが, Cが「なんでも思い通りにならない」と考えていると理解したことを示している. そして,「我觉得国内能有什么不尽人意的呢(国内で何が思い通りにならないことがあるのと思う)」と反語文を用いて,「国内に思い通りにならないことがある」という C の考えに対して疑問や懐疑を示すことで,「国内にいる C が思い通りにならないと言う立場にいない」というスタンスを示している(02行目). 続けて, アメリカで「苦巴巴的(苦しい)」AとBを, 国内にいて「今後のことを考える必要がない」,「衣食を心配する必要がない」Cと対比することで, Cが常に恵まれた環境にいることを強調している(03, 04, 05, 06, 07行目). さらに, Aは, Cの手紙に書かれた内容「思い通りにならない」を再び引用した後,「能有什么不尽人意呢. (何が思い通りにならないことがあるの.)」と, 再度反語文を用いて「国内にいるCが思い通りにならないことがある」ことに対して疑問を提示する(08, 09行目). このように, Aは, Cが恵まれている環境にいるにもかかわらず,「思い通りにならない」と愚痴を言うことに対して不満を述べ, Cに対する批判的なスタンスを明示している.

```
01 A .hh>不是<我  一 看   我  说   哟  怎么   这么-  就      好像(.).h 什么  都   不尽人意,
       いや  1SG 一 見る 1SG 言う INT なんで こんなに ADV のようである 何   も 思い通りにならない
     .hh>いや<私が読んでみると、えっなんでそんなに-まるで(.).h 何でも思い通りにならないようだ,
02   我  觉得  国内  能   有 什么     不尽人意       的    呢.=
     1SG 思う 国内 できる ある 何 思い通りにならない PRT PRT
     国内で何が思い通りにならなかいことがあるのと思う.=
03 A  =像       咱们  在(h)这(h)儿(h)(.).hh 苦巴巴(h)的(h)哈 haha
     みたいだ 1PL いる  ここ                苦しい     PRT
     =私たちみたいにここで苦しい(生活をしている)haha
04 A  .hh 肯定 国内          想        咱们  特别  好：是吧：：,
       絶対 国内 (...であろう)と考える 1PL 特別に 楽 でしょう
     .hh 絶対に国内は私たちがとても楽だろうと考えるでしょう::
05   我    老   >觉着< 国内  多  轻松  啊=
     1SG ずっと 思う 国内 なんと 気楽 PRT
     私はずっと国内がなんと気楽だと思う.
06 A =真的:,我  就   觉得 Tch(.)国内 "嗯"(.)最起码   你  不   用    愁     什么(0.5)以后 怎么样 啊,
     本当 1SG ADV 思う      国内 うん 少なくとも 2SG NEG 必要 心配する 何     今後 どうなる PRT
     本当:私が Tch 国内"うん"(.)少なくともあなたが今後どうなるかを心配する必要がないと思う,
07 A  反正       就  是(.) 怎么 说.hh 就  吃穿 你  不    用   ¥愁     啦:¥
     いずれにせよ ADV COP どう 言う ADV 衣食 2SG NEG 必要 心配する PRT
     いずれにせよ(.)なんて言ったらいい.hh 衣食を心配する必要がない:
08 A 这(h)个(h)还:.hhh(.)>"还   说    什么"?<(0.2)<不尽人意>,
       これ    まだ      まだ  言う   何        思い通りにならない
     こ(h)れ(h)がまだ:.hhh(.)>"まだこんなこと言うの"?<(0.2)<思い通りにならない>,
09   能   有   什么  [不尽人意   呢]
     できる ある 何  思い通りにならない PRT
     何が思い通りにならないことがあるの.
10→B                  [不过, 我- ] 我 觉得:
                       ただ  1SG  1SG 思う
                       ただ,私-私が思う:
11                   (0.3)
12→ 她：：(.)就   是  国内 也 有  >各(自)  的      难处<,
     3SG  ADV COP 国内 も ある それぞれ POSS 困難なところ
     彼女::(.)国内もそれぞれの困難なところがある,
13→B 你   瞧  >比如说<她   现在(.) 住-住  的  那个 地方 吧,
       2SG 見る 例えば 3SG 現在  住む NOM あの 場所 PRT
     ほら>たとえば<、彼女が今住んでいるところ,
14→.hh 很可能  就  是(.) 她  婆婆   来      看      孩子.
       おそらく ADV COP 3SG 姑さん 来る 世話をする 子供
     .hh おそらく彼女の姑さんが子供の世話をしに来た.
15              (0.2)
16 A  噢：：
       お::
```

このようなAの批判的なスタンスに対して, Bは10行目から明示的に寄り添わない反応を産出している(10, 12, 13, 14行目). 10行目でBは, 09行目でAが「能有什么(何が...あるの)」と, 反対や同意しないことを表す代名詞「什么(何が...だ)」を産出し,「思い通りにならない」と言うCに対してネガティブなスタンスを示すと理解できるタイミングで, 反応を開始している. 10行目の冒頭でBは, 相手の言ったことを補充・修正する意味を表す逆接の接続詞「不过(ただ)」を用いて, AのCに対する意見に対して同意しない点があることを示し, Aに寄り添わない反応を行うことを予示する. その後, Bは,「我觉得:(0. 3)她::(.)就是国内也有>各(自)的难处<(私が彼女::(.)国内もそれぞれの困難なところがあると思う)」と, 国内にいるCが国外にいるAとBと同じく困難な状況にいるという意見を産出している(10, 12行目). その際, Bは, 発話の冒頭で認識的スタンス標識「我觉得(私が思う)」を用いて, その後に続く意見をBの個人的な意見としてデザインしつつ(Endo, 2010),「国内也有>各(自)的难处(国内もそれぞれの困難なところがある)」という意見を産出することで, Cが, 国外にいるAとBが直面しているような困難を抱えてはいないが, 国内なりの問題を抱えていることを示し, Cが「思い通りにならない」といえる立場にいることを暗示している. さらに, 続けて,「你瞧(ほら)」と, Aもすでに知っている情報をAに対して喚起するように促しながら,「>比如说<她现在(.)住-住的那个地方吧, hh 很可能就是(.)她婆婆来看孩子. (>たとえば<, 彼女が今住んでいるところ, . hh おそらく彼女の姑さんが子供の世話をしに来た.)」と, 国内にいるCが「思い通りにならない」といえる立場であると言える理由を一つ推測して提示している(13, 14行目). このように, Bは, Cが「思い通りにならない」と言える立場にいることを暗示し, それに加えてそう言える理由を提示することによって, Cの言動が合理性を持つものであると示唆

[1] 「(我说(私が言う)」という言語形式は, , 話し手の発話を直接引用するマーカーであるとともに, , 話し手の思考を引用するマーカーでもある. .

[2] 「不尽人意(思い通りにならない)」という四字熟語は, , Cからの手紙に書かれていた「<很多事情都不尽人意(たくさんのことが思い通りにならない)」を繰り返して利用するものである. .

し, A の示した C に対する批判的なスタンスに対して明示的に寄り添わない反応を行っていると理解できる.

次の事例②は, 同じゼミの先輩二人(H, T)と後輩の一人(J)の雑談である. 事例②で, H は, その場にいない後輩(S)の修士論文を添削してあげた時の出来事を語ることを通して, S への愚痴をこぼしている. それに対して, 聞き手 J が 54, 56 行目で明示的に寄り添わない反応を行なっている.

事例②【J&H&T_059_11:26-12:52_添削】

01 H =.hhSさん　惹　我　火　那次　是　怎么回事儿 呢,=
NAME 引き起こす 1SG 怒る その時 COP どういうこと PRT
Sさんが私を怒らせたのはどういうことだというと,
((12行省略　Hは、Sが締め切りを控えていることを説明している))
14 H　然后 吧　她　就: 之前: 发　给　我 了, 发　给　我　的话,
で　PRT 3SG ADV その前 送る くれる 1SG CRS 送る くれる 1SG たら
それで,彼女が(締め切り)の前に私に送った, 私に送ったら,
15　(0.8)
16　H　就　是　我　如果(0.6) 就　是　她　发　完　之后 我　不　立刻　看　的话,
ADV COP 1SG　もし　ADV COP 3SG 送る 終わる 後 1SG NEG すぐ 読む たら
もし私が(0.6) 彼女が送ってくれた後私がすぐ読まないと,
17　她　就　错过　老师　的　那个[.hh那个 [截止日期　了.
3SG ADV 間に合わない 先生 POSS あの　あの　締め切り CRS
彼女が先生のあの.hhあの締め切りに間に合わなくなる.
18 T　[啊:　[啊↑:↓:
あ:　あ↑:↓
((6行省略　HがHとSの仕事時間と寝る時間が逆であることを説明する))
25 H　[.hh>然后<我　就:(.)她　发　给　我　的　瞬间　我　那 >一天< 什么 都　没　干,
で　1SG ADV 3SG 送る くれる 1SG NOM 瞬間 1SG あの 一日　何　も　NEG やる
.hh>で<私:(.)彼女が私に送った瞬間から私はあの日(自分のことを)一日何もやらなかった,
26　就　是　给　她　改.
ADV COP あげる 3SG 添削
彼女の添削をしてあげた.
27 T　嗯
うん
28 J　[>嗯　嗯<
>うんうん<
29H　[.hhh给　她　改　完　了-(0.2)从　早上　改　到　晚上　那 [种.
あげる 3SG 添削 終わる PFV から 朝　添削 まで 夜　そういう
.hhh添削し終えた-(0.2)朝から夜まで添削し続けた.
30 J　['嗯'
'うん'
(3行省略　Sが夕方に起きることを説明する)
34 H 晚上 的 时候 我　给　她　发 过来 了, 你 >知道<她 第一 句 话　跟 我(.)说　(的) 什么 吗.
夜 POSS 時 1SG あげる 3SG 送る LOC PFV 2SG 知る 3SG 最初 CL 言葉 に 1SG 言う NOM 何　Q
夜に私が彼女に送った,彼女が私に最初に何を言ったか知っているか.
35 T　嗯=
うん
36 H　=.h学姐　你　改　得　<好　快>　啊.
先輩 2SG 添削 COMP とても 早い PRT
先輩添削<とても早い>ですね.
37 J　u [hhhh [hhhhhheh]
38T　[hhhh
39 H　[我　当时　我　↑噌:一下　我　就q-]
1SG 当時 1SG ONOMA 1SG ADV
私が当時カッとなって私が-
40　我　说　我(.)　给　你　改　了 一天　[>你 知道 吗<, [我<一天> 我　什么 都　没 看,=
1SG 言う 1SG あげる 2SG 添削 PFV 一日 2SG 知る Q　1SG 一日 1SG 何　も NEG 読む
私が一日をかけて添削してあげたのを知っているか,私が<一日>何も読まなかったと言った,
41 J　[hehe　[hhhhheh
42T　[hhhh
43 H　=.hhhh我　就(.) 哇: [天哪: 哇:塞: 我　就-
1SG ADV INT　INT　INT　私 ADV
.hhhh私がわぁ:ありえない:わ:ぉ:私が-
44 J　[haha
45 T　就-(0.4)就　不　能(.)　提前　>问　问<　别人　有　时间:: 吗::?
ADV ADV NEG できる 前もって 聞く 聞く 他の人 ある 時間　Q
前もって他の人に時間があるかどうかと聞いてくれないの?
46H　这-　这　倒无所谓 >你 知道 吗<,就　是　她　给　我　的　是ji-(0.7)
これ これ 別にいい 2SG 知る Q ADV COP 3SG くれる 1SG NOM COP
これ-これが別にいい,>知ってるか<,彼女が私にくれたのは-(0.7)
47　<学 [姐 你　改　得　好　快　呀> [就- 这种　就很　[轻-
先輩 2SG 添削 COMP とても 早い PRT ADV こういう ADV とても 軽い
<先輩添削とても早いですね>こういうとても軽い-
48J　[嗯::
うん::
49 T　[>就　觉得< 很　随意.=
ADV 思う とても 適当
とても適当だと思う.=
50 H　=对　很　随意的　话, 让　我　觉得_
そう とても 適当な 話 させる 1SG 思う
そう,とても適当な返信,私に思わせる-
51　(.)　((Hが小さく頷く))
52　J　啊::
あ::
53　(.)
54→J　>但是< 可能(.) 她 可能 本身 也 没有　什么 恶意,
でも　多分　3SG多分 自身 も NEG　何　悪気
>でも<多分(.)彼女自身に多分悪気はなかった,
55 H　[.h>对　对　对<.
>そう そう そう<
56→J [(会　这样　说) 因为 老 [师 可能 两三天　才　回　给　[她, >嗯 [嗯<
はずである こういう 言う から 先生 多分 二三日 やっと 返す あげる 3SG うん うん
こう言うのは多分先生が二、三日かけて彼女に返してあげるからだ,>うんうん<
57H　[是　[是　[是, 没有 恶意,
はい　はい　はい NEG 悪気
はい,悪気がなかった

この事例の前では, H は, 後輩たちの依頼を受けて相談に乗ってあげたりするが, 彼らは自分の苦労を理解してくれないと話している. 01行目でHは,「 Sさん惹我火那次是怎么回事儿呢(Sさんが私を怒らせたのはどういうことだというと)」と, 第三者「Sさん」を自分の苦労を理解してくれない後輩の一人として取り上げ,「Sさんが私を怒らせた」経験があるとTとJに告げ, それを語るための発話スペースを求めている. 続けて, 14行目から36行目にかけて, 修士論文を提出する締め切りを控えているSのために, 自分の仕事よりSの修士論文の原稿を添削することを優先して, 朝から晩まで一日をかけて添削してあげたが, それに対して, Sが「学姐你改得<好快>啊. (先輩添削<とても早い>ですね)」という返信をしてきたという出来事について詳細に語っている. その後, Hは, Sの返信に対して「我当时我↑噌:一下我就q-(私がその時↑カッとなって)」と憤りを覚えたことを述べて自分の怒り具合を説明し, Sの返信が憤慨すべきものであることを聞き手TとJに示している(39, 40, 43行目). それに対して, 聞き手Tは,「就不能(.)提前>问问<别人有时间::吗::?(前もって他の人に時間があるかどうかを聞いてくれないの?)」と質問し, Sが事前にHに時間を確認していないことが憤慨すべきことであるという理解を示している(45行目). このTの理解に対して, Hは「这倒无所谓(それは別にいい)」と否定する(46行目). そして,「<学姐你改得好快呀>(先輩添削とても早いですね)」 とSの返信をゆっくり繰り返し,「就-这种就很轻- (こういうとても-)」と, Sの返信に対する何らかの評価を産出しようとし, 聞き手に対してこれまで語ってきた出来事がどう理解できるかを提示しようとしている(47行目). しかしながら, 程度副詞「很(とても)」を言いかけたところで, 聞き手Tが49行目でSの返信に対して評価する発話を開始したため,「轻(軽い)」で発話を中断する. Sの返信が「就觉得<很随意. (とても適当だと思う)」というTのネガティブな評価に対して(49行目), Hは「对很随意的话(そうとても適当な返事)」と直ちに同意する(50行目). 聞き手TによるSに対するネガティブな評価に同意することで, Hは, 一日をかけて添削してあげたことに対して,「先輩添削とても早いですね」という返信をすることが不適切な行動であることを示し, Sに対する批判的なスタンスをTとJに明示している.

Hのこの批判的なスタンスに対して, 聞き手Jは明示的に寄り添わない反応を産出している(54, 56行目). 54行目の発話の冒頭で,

Jは相手が述べたことを否定する意味を表す逆接の接続詞「但是(でも)」を産出して，HのSに対する評価に同意しないことを示し，Hに寄り添わないことを予示する．その後，Jは，「可能(多分)」と確信度を下げつつ，「她可能本身也没有什么恶意，(彼女自身に多分悪気はなかった)」と，語られた出来事に対して，Sが悪気をもって「あえて」そういう返信をしたのではないというJ自身の解釈を提示する．続けて，「(会这样说)因为老师可能两三天才回给她(こう言うのは多分先生が二，三日かけて彼女に返してあげるからだ)」と，Jがそう解釈できる理由を推測して提示し，先生が二，三日をかけて返してくれるのに対して，Hが一日で返してくれることに対して，Sが「先輩添削とても早いですね」といった返信をするのは，ある意味で理解できる言動であると仄めかしている．このように，Jは，Hの語りに対する自身の理解を提示するのに加えて，そう解釈できる理由を提示することによって，Sの言動が合理性を持つ言動であると示唆し，Hの表明したSに対する批判的なスタンスに対して明示的に寄り添わない反応を行なっていると理解できる．

ここまで見てきた二つの事例を整理すると，両事例とも，聞き手は，ターン冒頭で逆接の接続詞を用いて，話し手に寄り添わない反応を行うことを予示した後，話し手と異なる意見もしくは第三者の言動に対する聞き手自身の解釈を提示し，さらに，そういう意見/解釈が可能となる理由を提示することで，第三者の言動が合理性を持つ言動であることを示唆する．このような方法を用いて，話し手が示した愚痴の標的の第三者に対する批判的なスタンスに対して明示的に寄り添わない反応を行なっていることがわかった．

3.2 聞き手の明示的な寄り添わない反応の相互行為上の働き

上記 3.1 で述べたようなやり方を用いることによって，聞き手は，愚痴の対象である第三者の行動が合理的なものであることを示し，愚痴の標的である出来事の責任を第三者に帰責することなく，明示的に第三者の肩を持ち，話し手に寄り添わないことを示す．一方，聞き手は，話し手と異なる意見もしくは第三者の言動に対する聞き手自身の解釈を提示する際，「我觉得(私が思う)」というこれから産出する意見が聞き手個人的なものであると示す認識的スタンス標識(Endo, 2010)，および，「可能(多分)」という確信度を下げる副詞を用いることによって，話し手に寄り添わない反応を行いつつも，話し手との衝突を和らげることを志向していることが観察可能である．さらに，聞き手は，そういう意見ないし解釈が可能であることを示すための理由を提示する際，話し手が納得するであろうことを理由として提示している [3]．そうすることによって，聞き手が愚痴の対象である第三者の言動に対して話し手と異なる自身の見解を提示するとともに，その見解を話し手が受け入れやすいものとしてデザインすることで，聞き手は，話し手に第三者の言動について考え直す機会を作り出し，話し手と第三者との「対立」を解消する方向へと取り組むことも志向していることが観察可能である．

4. まとめ

本研究では，中国語の日常会話において，第三者についての愚痴に対して聞き手がどのように明示的に寄り添わない反応を行い，また聞き手がそうしたやり方を用いて何を成し遂げるのかについて考察した．その結果，聞き手はターン冒頭で寄り添わないことを予示した後，愚痴の対象となる第三者の言動が合理性を持つ言動であると示唆することで，明示的に第三者の肩を持ち，話し手に寄り添わないことを示すことが明らかになった．と同時に，聞き手が寄り添わない反応を行う際，自身と話し手との衝突を和らげることに加え，話し手と第三者との「対立」の解消にも志向していることがわかった．しかしながら，本稿は，聞き手の明示的な寄り添わない反応についての分析にとどまっており，聞き手の反応に対して話し手がどのように受け取るのかをさらに分析する必要がある．それについては，今後の課題にしたい．

参考文献

Couper-Kuhlen, E. (2012). Exploring Affiliation in the Reception of Conversational Complaint Stories. In A. Peräkylä, & M. -L. Sorjonen (Eds.), *Emotion in Interaction* (pp. 113-146). Amsterdam: John Benjamins Publishing Company.

Drew, P. (1998). Complaints about transgressions and misconduct. *Research on language and social interaction*, 31 (3/4), 295–325.

Drew, P, & Walker, T. (2009). Going Too Far: Complaining, Escalating and Disaffiliation. *Journal of Pragmatics* 41, 2400–2414.

Endo, T. (2010) . Epistemic stance marker as a disagreement preface : Wo juede 'I feel/think' in Mandarin conversation in response to assessments. 京都大学言語学研究, 29:43-76.

Heinemann, T. (2009). Participation and exclusion in third party complaints. *Journal of Pragmatics*, 41, 2435-2451.

Holt, L. (2012). Using Laugh Responses to Defuse Complaints. *Research on Language & Social Interaction*, 45 (4), 430–448.

Mandelbaum, J. (1991/1992). Conversational Non-cooperation: An Exploration of Disattended Complaints. *Research on Language & Social Interaction*, 25, 97-138.

Ruusuvuori, J, & Lindfors, P. (2009). Complaining about previous treatment in health care settings. *Journal of pragmatics*, 41, 2415–2434.

Yang, H. (2018). *Turn-prefacing búshì (不是) in mandarin Chinese: A conversation analytic perspective*. Master thesis, Department of School of Foreign Languages, Shanxi University.

---

[3] 具体的に，，事例①では，，聞き手Ｂが「彼女が住んでいるところに，，彼女の姑さんが子供の世話をしにきた」という情報を理由として提示している．．そういった情報からＣが，，現在，，姑さんと同居し，，子育ての生活をしているということが推測できる．．育児の悩みおよび，，周知されている複雑な嫁姑問題を抱えているＣが「困難なところがある」ことを，，Ａが納得することが期待できるであろう．．事例②では，，聞き手Ｊが「先生が二，，三日をかけて返してくれる」ことを理由として提示している．．先生に添削を依頼したことがあるという共通の経験を持つＨが，，その理由を納得することが期待できであろう．．